

LGBT S とは

LGBTとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取って組み合わせた言葉で、性的少数者を表す言葉の一つとして使われることもあります。

【レズビアン】

L 性自認が女性で
女性を好きになる人

【ゲイ】

G 性自認が男性で
男性を好きになる人

【バイセクシュアル】

B 同性も異性も
恋愛対象になる人

【トランスジェンダー】

T 心の性別と身体の
性別が一致しない人
※一致せず違和感を抱えている人も含む

その他にも、性的指向や性自認がはっきりしない人、決めたくなかったり、分からなかったり、悩んだりしている人や、自分を男性・女性いずれとも認識していない人、他者に恋愛感情や性的欲求を抱かない人などが存在します。

LGBTの4類型だけで表すことは難しく、このリーフレットでは、LGBTをはじめとする性的マイノリティという意味でLGBTs（エル・ジー・ビー・ティーズ）と表します。

SOGIとは

性的指向（Sexual Orientation）と性自認（Gender Identity）の頭文字をとった言葉でSOGI（ソジ）と読みます。あらゆる人に関わる性の概念で、「誰もが当事者」と捉えやすくなり、国連等においてもSOGIが使われるようになってきています。

日常生活を振り返ってみましょう

できていれば

- 子どもの意見をきちんと受けとめて聞いている
- 明るく丁寧な言葉で声かけをしている
- LGBTsをからかう発言や差別する発言をしない
- LGBTsをからかう発言や差別する発言を見逃していない
- 子どもによって呼び方を変えず、公平な呼び方をしている
- 子どもが互いのよさを認め合える場面をつくっている
- 子どもの意見や活動に適切な評価（承認、促し、励ましのメッセージ）を伝えている
- 図書室や保健室にLGBTsに関する本を置いたり、学校内にポスターを掲示したりしている
- 学級活動の話題として、当事者の励みになるような視点でLGBTsについて取り上げている
- 保健だより、学年だより等で、多様な性に関する本の紹介や啓発を行っている
- LGBTsに関する講演会や研修会に参加している
- LGBTsに関する本を読んだり、映画を見たりしている

チェックマークを増やしていきましょう！

自分の身近にLGBTsの方がいるという視点に立ち、見た目で他の人の性の在り方を決めつけたりしないようにすることが大切です。定期的に御自身の日常生活を振り返ってみてはいかがでしょうか。

多様な性について

考えよう

みんながありのまま

自分らしく輝くために

性的指向や性自認に関わるのが、いじめや不登校、自傷行為の原因につながっていることもあります。すべての子どもが安心して生活できる人間尊重の視点に立った子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを進めましょう。



札幌市教育委員会

多様な性とは

性のありようは、次の要素から捉えることができます。

身体の性

戸籍に記載されている性別

心の性（性自認）

自分の性別を自分でどう思うか



好きになる性（性的指向）

どういった人を好きになるか

※性的指向は思春期の頃に気付きますが、自分の意思で変えることはできません。

表現する性（性別表現）

服装やしぐさ、言葉遣いなど

※性別表現が必ずしも性自認や性的指向とは一致しないことがあります。

様々な「性の在り方」

性のありようは、一人一人に個性があるように、様々です。生まれた時の性別である「身体の性」と自分が自覚している「心の性」は、必ずしも一致するものではありません。また、「好きになる性」も、必ずしも異性ではありません。性の在り方は多様で、「グラデーション」に例えられます。

学校の中には、男女別を前提とした仕組みや制度があります。誰もが安心して生活できる仕組みや制度となっているか振り返り、見直していくことも大切です。

互いを結び付け、充実発展を図る「人間尊重の教育」

「人間尊重の教育」は、各教科や「特別の教科 道徳」、総合的な学習（探究）の時間、特別活動、教科外活動等のそれぞれの特質を踏まえつつ、全ての教育活動の基盤として、推進することが大切です。

「人間尊重の教育」の学習や活動で取り上げるテーマ・内容は、必ずしも新しいものではありません。それぞれの取組をお互いに結び付けることで、既存の取組の一層の充実発展を図ることが可能です。

子ども一人一人が
「自分が大切にされている」と
実感できる学校づくり

互いの個性や多様性を認め合う

「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」と「世界人権宣言」の第1条に明記されています。人権の普遍的原則は、個人の性的指向、性自認や性別表現によって左右されるものではありません。

性的指向・性自認に悩む子どもは、日常生活で心理的葛藤やストレスを感じています。「ホモ」「おかま」「レズ」などの言葉に傷つき、いじめや差別の対象になる不安などから、誰にも相談できずに孤独感・疎外感を深めている場合もあります。

LGBTsの子どもが、「学級にいない」のではなく、「いるであろうけれども、言い出せないでいる」と捉え、想像力をもち、学校としてできることを考え、実践していくことが必要です。

子どもは、どの子もよさや可能性をもっています。子ども一人一人のよさを促し、認め、支えるためには、「その子自身が安心できる」メッセージをそれぞれに伝え続けることが、すべての子どもの健やかな成長へとつながります。



大切にしたいこと

アライ（Ally）

性的マイノリティのことを理解し、支援する人たちを指します。アライが増えていくことで、安心して生活できる子どもも増えます。



札幌市版ALLY（アライ）マーク

カミングアウトされたら

自分の性自認、性的指向について他者に告白することをカミングアウトと言います。

子どもからカミングアウトされたときは、話してくれたことを受け止めて、「話してくれてありがとう」と伝えてください。また、何かして欲しいことはあるのか、して欲しくないことはあるのかを確認しましょう。

※本人の意思に反して暴露するアウトティングや、本人にカミングアウトするよう強く勧めることは、当事者である子どもを傷つけ、不登校やうつ、自傷行為などにつながる場合もあることに注意が必要です。